

まちの話題



ISA City Topics



自然と歴史感じてウォーキング



9月11日、ボランティアガイド「伊佐の風」が案内するウォーキング大会が開催され、市内外から65人が参加しました。

曾木の滝公園を出発し、曾木第一発電所跡、新曾木大橋の下をくぐってビオトープあったらし村、曾木発電所遺構、曾木の滝分水路を巡る約7キロのコースで行われました。

この日は、普段立ち入ることのできない曾木発電所遺構の見学もあり、遺構を間近で見られる貴重な機会とあって、参加者は写真撮影をしたり、創業当時の写真を見ながらガイドの話に聞き入っていました。

71年目の追悼式



今年も8月15日終戦の日に、戦没者追悼式が挙行されました。会場の伊佐市文化会館には、戦没者の遺族や市の関係者など約150人が集まりました。

ラジオ放送の正午の時報に合わせ、参列者は1分間の黙とうを捧げました。続く式典では、伊佐市戦没者会の代表らが平和への思いを述べた後、参列者全員で献花を行いました。

遺族の高齢化が進んでいますが、参列者の中に10代以下の人の姿も見られました。先の大戦を知らない若い世代に、戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えていくことが必要です。

天体ドームで秋のお月見

9月10日、南永小学校で「秋の星空観察・お月見会」が行われ、市内外の小学生や保護者、宇宙少年団など約90人が参加しました。

宇宙少年団の左近充分団長による秋の星空や月、惑星についての説明の後、校内にある天体ドームの望遠鏡を使って夜空を観察しました。あいにくの曇り空で星は見え、月の観察のみとなりましたが、天体望遠鏡で見る月は月面のクレーターなどの様子がくっきりと見え、参加者は感動していました。



倒壊建物から命を救え！



△傷病者を救出



△応急処置



△ヘリに搬入

9月9日の救急の日に伴い、伊佐市体育センターと陸上競技場で10日、「集団事故想定訓練」が行われました。

伊佐市を震源とする震度7の地震が発生し、体育センターが倒壊、建物の内外で多くの傷病者が出た想定での訓練となりました。

①119番通報を受けた消防の指揮隊は、現場に到着するとすぐに現場指揮本部を設置。②救急隊と救助隊が協力してがれきを撤去し、傷病者を救出。③屋外の救護所では指揮本部から派遣要請を受けた伊佐市医師会の医師や看護師が、次々と救助された傷病者のトリアージ、応急処置にあたる。④県と米盛病院からドクターヘリ2機も到着し、重傷者を鹿児島市内の病院へ搬送するという訓練内容でした。

会場は緊張感に包まれ、全ての過程が同時に慌ただしくも円滑に進行していました。日頃からの訓練の重要性を感じました。

オリンピック視察研修



伊佐市カヌー協会は8月13日～24日、リオオリンピック2016のカヌー競技視察研修に日本カヌー連盟視察団の一員として植木裕一郎さん（湯之元）を派遣しました。植木さんは、現在、日本カヌー連盟競技運営部副部長で国際審判員。2020東京五輪にも審判員として参加します。

現地では、カヌースプリント競技会場や東京2020ジャパンハウス（2020東京五輪や開催都市東京・日本の魅力をアピールする施設）などを視察しました。

伊佐市菱刈カヌー競技場では、2019年の高校総体、2020年の鹿児島国体の開催が決定しており、東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿の誘致に向けても取り組んでいきます。カヌー競技場を世界レベルのものにするため、また、カヌーを伊佐市のタウンスポーツとして確立できるよう、競技場の整備や選手育成に尽力していきます。

身近な川もっと知ろう



8月19日、伊佐地区内水面活動組織と針持校区コミュニティの協力により、針持小学校で「川の出前授業」が行われました。

児童らは、学校近くの針持川にアユの稚魚を放流した後、川の生き物の生態について学びました。簡易プールでのつかみ獲り体験では、触り慣れないアユとウナギの感触に大きな声を上げながら、捕まえた魚を次々とバケツに投げ込んでいました。つかみ獲ったアユはその後竹串を刺され、昼食の塩焼きになりました。

川的美しさを保つことで生き物が育つこと、その生き物を人間も食べて生きているという、川の大切さを学びました。